



# OECD の枠組みに基づく世代別金融リテラシーの調査研究

## 1. 研究の目的

金融リテラシーには、全世代・全属性に求められる内容もあれば、特定の世代・属性に重点的な強化が必要な内容もある。OECD では若者、成人や中小零細企業家向けの調査を行い、フレームワークを提示している。全世代にわたり金融リテラシーを育成するためには、精査された調査票を用いて大規模サンプルで調査を行い、統計的検討を重ね、頑健な規定要因を明らかにすること、そしてその結果に基づいたオーダーメイド方式による金融経済教育を展開していくことが必要である。このような問題意識のもと、本助成研究では3ヶ年で3つの異なる世代特有の課題（大学生と貸与型奨学金、成人と確定拠出年金、高齢者と特殊詐欺被害）について調査を行い、検討を行うことを目的とした。

2023年度は高齢者を対象に特殊詐欺被害の規定要因、また金融リテラシーとの関連をテーマに設定した。特殊詐欺とは、被害者に電話をかけるなどして対面することなく信頼させ、指定した預貯金口座への振込みや、その他の方法により不特定多数の者から現金等をだまし取る犯罪（警察庁）のことであり、被害額は1日1億円以上、被害者の8割以上が高齢者でありかつ女性、という特徴を持つ。

この高齢者特殊詐欺に関する先行研究には、「詐欺脆弱性」、「真実デフォルト」(Truth-Default Theory: TDT, Levine (2014))、「認知的節約」(合理的に判断すべき局面で感情的な意思決定が優先されてしまう現象)といった詐欺被害に遭いやすい人の傾向・心理的要因に着目した研究(上野ら2020; 大工ら2018; 滝口2018)が多い。他方で、特殊詐欺に特有の時間的プレッシャーに注目した研究、すなわち、時間的プレッシャーがあると意思決定者はハイレベルのストレスを経験し、疲弊し、熟慮を欠くため、思考がより複雑でない推論ストラテジーを用いる方向にシフトする(Orasanu & Connolly 1993)、といった特殊詐欺の手法の特性に着目した研究はほとんどない。そこで本研究では、「気分が高揚している、激しく動揺しているなど生理的興奮を主観的に経験している状態」(石淵2013)をさす「感情覚醒」場面に注目し、「感情覚醒」をどう調整するのかという「感情調整」という視点から検討を行う。作業仮説は以下の通りである。

仮説1: 感情覚醒が高いほど、詐欺に遭いやすい(特殊詐欺脆弱性が高い)だろう。

仮説2: 感情調節ができない人ほど、詐欺に遭いやすい(特殊詐欺脆弱性が高い)だろう。

## 2. 研究の計画

図1に示す研究枠組みに沿って調査票を独自に設計し、調査を実施した。高齢者の特殊詐欺を主題とする量的調査を実施した経験がなかったため、まず小サンプルで調査を行い、その後、大規模サンプル調査(n=2700)を実施した。なお、実査にあたり、実践女子大学研究倫理審査委員会の承認を得ている(承認番号 2023承-22)。

調査の実施概要は以下の通りである。

### 【調査1】インターネット調査-1

調査対象: 55-64歳、65-74歳、75歳以上男女、各100サンプル

調査時期: 2023年11月(女性のみ)→12月(男性のみ)

調査会社: Freeasy(セルフ型アンケートツール)

調査項目: 意思決定(システム1、システム2)、感情覚醒、感情調整、特殊詐欺脆弱性など

特徴: 二重過程理論を基にした性格特性(システム1的性格特性(直観型)、システム2的性格特性(熟慮型))を組み込んでいる。

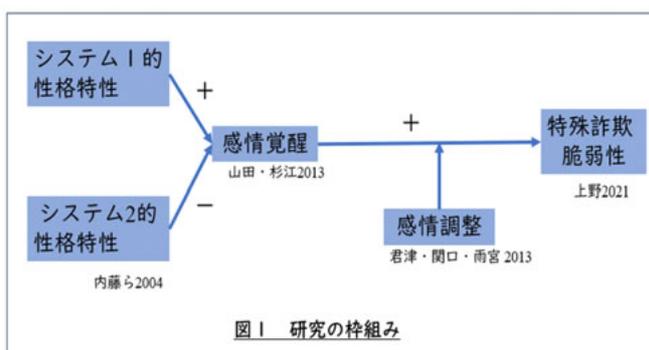


図1 研究の枠組み

## 【調査2】インターネット調査-2

調査対象：65-69歳、70-74歳、75-79歳男女、各450サンプル

調査時期：2024年3月

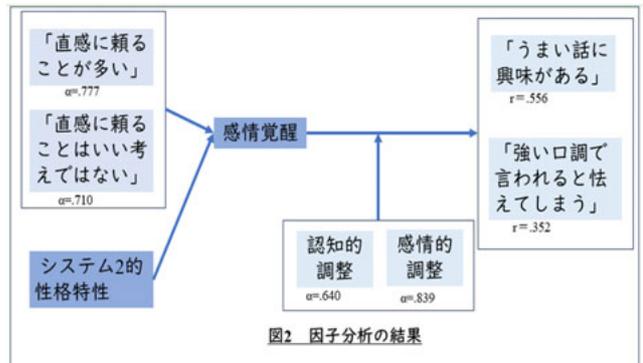
調査会社：メルリンクス

調査項目：【調査1】に加えて、金融リテラシー変数（知識、態度、行動）

### 3. 研究の成果

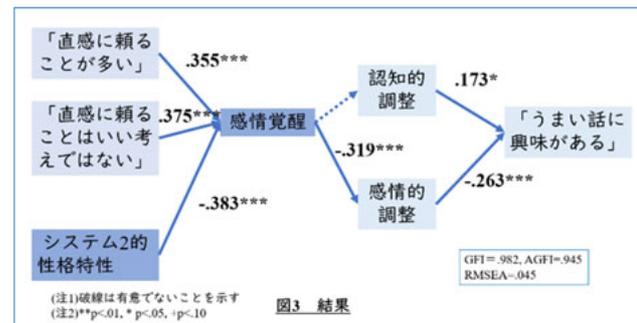
【調査1】の女性に関する結果を記す。

(1) 因子分析の結果、従属変数は「うまい話に興味がある」と「強い口調で言われると怯えてしまう」の2因子が抽出された。独立変数は、システム1的意思決定が2因子、感情調整が2因子となった（図2参照）。因子分析に基づく修正枠組みを用いてパス解析を行った。



(2) 従属変数「うまい話に興味がある」に関するパス解析（図3参照）：

モデルの全体的評価を行う適合度指標から、本研究において設定したモデルの実際のデータ適合度は高く、構成されたモデルは標本構造をよく説明していると判断できる。性格特性として「直感に頼ることが多い」直観型では感情覚醒にプラスの影響を与えるが、システム2的性格特性である熟慮型は、感情覚醒に有意にマイナスの影響、つまり、熟慮すると感情覚醒が抑制される結果を示した。感情が覚醒した状態では認知的な調整は有意でなく、感情的な調整が有意であるが、感情的な調整は生じさせにくい状態であることも示された。感情的調整ができると、「うまい話に興味がある」という特殊詐欺脆弱性の1つの因子を抑制することが示唆された。



(3) その他、相関関係から、「感情覚醒」は、毎日の生活に満足しているほど低く ( $r = -.160, p < .05$ )、逆に自分と他者を比べる ( $r = .172, p < .10$ )、または他者から頼られたら何とかしてあげたくなる ( $r = .215, p < .05$ )ほど高い、という結果を示した。

### 4. 研究の反省・考察

(1) 反省の1点目は「自分がお金を支払えば、息子を救えると思った」という言葉に代表されるような別の経路、具体的には子の窮地を救い、被害が周囲に拡がらない最善の策として「ある程度のお金で穏便に解決した」（澁谷 2020）、という点の検証を行うことができなかつた点である。これは「限定合理性」の観点から引き続き、検討を重ねていく。

(2) 反省の2点目は、大規模調査の実施時期が大幅に遅くなった点である。【調査1】が11月、【調査2】は3月実査となってしまった。この大規模サンプルを用いた学会発表、論文投稿は2024年度中に行う。

### 5. 研究発表

(1) 学会誌等

- ① [高橋桂子](#) (2024) 経済学を専門としない大学生のための新規講義「実践教養講座 c: 大学生と金融リテラシー」: 概要と履修生の反応、下田歌子記念女性総合研究所年報、10、17-27.
- ② [猪瀬武則](#) (2023) 経済的エージェンシーの発揮を企図した中学校社会科の授業開発 : ナッジとしてのカフェテリアプランの場合、経済教育、42、94-99.
- ③ [猪瀬武則・高橋桂子](#) (2023) 子どもの金融ケイパビリティ保障の意義: ナッジとしての4つのスロットを持つ貯金箱の活用可能性、経済教育、42、159-172.

- ④ 倉元綾子(2024) 乳幼児期の子どもと家族を支援する教育：米国・ミネソタ州の親教育コア・カリキュラムをもとに、家庭生活支援の専門を究める(家政教育部会)、88-97.
- ⑤ 倉元綾子 (2024) 家庭生活支援の基礎理論：米国家族生活支援から学ぶ、家庭生活支援の専門を究める(家政教育部会)、12-27.
- ⑥ 倉元綾子 (2024) 金融に関する知識と生活行動との関連：九州の私立大学生へのインタビュー調査から、西南学院大学人間科学論集、19(2)、1-30.
- ⑦ 倉元綾子・安谷竜輝(2023) 日本におけるLGBTQ+と学校教育の現在、西南学院大学人間科学論集、19(1)、33-68.
- ⑧ 倉元綾子・井元りえ(2023) 「日本の家政学のSDGsポジション・ステートメント案」作成プロセス、家政学原論研究、57、46-48.
- ⑨ 倉元綾子 (2023) ゴール5 ジェンダー平等を実現し、すべての女性と少女をエンパワーする、家政学原論研究、57、27-31.
- ⑩ 倉元綾子 (2023) 家政学・家政学原論の未来を切り拓く：日本家政学のSDGsポジション・ステートメント(3&5、11、12) 試案(公表とパネルディスカッション) 趣旨説明、家政学原論研究、57、20.

## (2) 口頭発表

- ① Takahashi Keiko. (2023), Concerns about money can remove by attending a financial economic class: Case study of Women's University in Japan, Paper presented at ERAS International Conference and WERA Focal Meeting 2023, Singapore (11/22-24) .
- ② Takahashi Keiko. (2023), New Course of “An Introduction to Financial Literacy “: Contents and Student Response of Women's University in Japan, Paper presented at the 14th Biennial Conference of Asian Consumer and Family Economics Association (ACFEA), Kitakyushu International Conference Center, Kitakyushu (Japan).
- ③ Takahashi Keiko, & Kuramoto Ayako. (2023), What did university students learn about money management from their parents? A case study of Japanese university students in Tokyo, ZOOM presented at the Family Economics & Resource Management Association (FERMA) 2023 Virtual Conference, ZOOM.
- ④ Inose, Takenori, Takahashi Keiko, & Abe Shintaro. (2023), The Significance and potential of guaranteeing children's financial capability: A financial capability survey using nudge-based teaching materials, Poster presented at the Twelfth Annual AEA Conference on Teaching and Research in Economic Education (CTREE), (U.S.).
- ⑤ Inose Takenori, Abe Shintaro, & Takahashi Keiko. (2023), Classroom development of secondary economic education where students exercise economic agency: the case of the cafeteria plan as a nudge, autonomy and well-being, Paper presented at the 24th AEEE Conference 2023 on European Economics Education, NHL Stnden University, Leeuwarden, The Netherlands (10/13).
- ⑥ 高橋桂子・笠井直美・松田純子(2023) 4-6歳児にみる社会経済認知：N大学附属幼稚園の事例、日本家政学会第75回大会(東京家政大学)。
- ⑦ 吉村亜紀代・高橋桂子・笠井直美・猪瀬武則(2023) 「4個の部屋」がある貯金箱：5歳児はお店屋さんごっこの売上金をどう分けるか、日本家政学会第75回大会(東京家政大学)。
- ⑧ 高橋桂子 (2023) 20代、30代にみる金融リテラシー、経済教育学会第39回全国大会(立命館びわこキャンパス)。
- ⑨ 高橋桂子 (2023) 大学生と金融リテラシー：講義内容、学生の反応、次年度へのインプリケーション、経済教育学会第39回全国大会(立命館びわこキャンパス)。

- ⑩ 猪瀬武則・高橋桂子・阿部信太郎 (2023) 生徒エージェンシーの発揮によるケイパビリティ保障は可能か？：ナッジとしてのアスリート・モデル構想を巡って、経済教育学会第39回全国大会（立命館びわこキャンパス）。
- ⑪ 猪瀬武則 (2023) 新たな金融リテラシー：測定、対象、理念、経済教育学会第39回全国大会（立命館びわこキャンパス）。
- ⑫ 阿部信太郎 (2023) 海外の教材を活用した金融リテラシー教育の実践と課題：米国の標準テストを活用した大学生の金融リテラシーの質的調査の試み、経済教育学会第39回全国大会（立命館びわこキャンパス）。
- ⑬ 倉元綾子 (2023) 米国におけるセクシュアリティ教育の動向－『家族生活教育：人の一生と家族』第4版（2022、ダーリン、キャシディ、バラード；ウェイブランド出版）から－、日本家政学会九州支部第67回大会（大分大学）。
- ⑭ 倉元綾子 (2023) 『家族生活教育：人の一生と家族』第4版（2022、ダーリン、キャシディ、バラード、ウェイブランド出版）にみる米国・家族生活教育の進展、日本家政学会第75回大会（東京家政大学）。
- ⑮ 小川正人 (2023) 国際博覧会とニュージーランド、第30回日本ニュージーランド学会研究大会（東北公益文科大学）。

### (3) 出版物

- ① 阿部信太郎 (2024) 小単元別の『会計』の取り扱い方、日本会計士協会編「会計情報の活用 教員のための授業実践ガイドブック」、日本公認会計士協会。